

平成31年度 北海道大学大学院
文学院修士課程入学試験（後期）

試験区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般入試 <input type="checkbox"/> 外国人留学生特別入試 <input type="checkbox"/> 社会人特別入試（後期のみ）
試験科目名	<input checked="" type="checkbox"/> 専門試験（ 言語科学 ） <input type="checkbox"/> 共通外国語（ ）
出題の意図	<p>言語科学の試験問題は、英語学、ドイツ語学・ゲルマン語学、フランス語学・ロマンス語学、言語学、国語学、日本語学の6分野から成っており、どれかひとつの分野の問題を選択して解答することになっている。いずれも学部教育で習得すべき基礎知識と大学院での研究に必要な能力を問う内容であり、専門用語および設問形式による基本概念の解説と応用、各分野の資料に基づく専門的な解釈を織り交ぜて出題している。</p>

平成31年度
北海道大学大学院文学院修士課程入学試験問題（後期）
（専門試験） 言語科学 全10枚のうち1枚目

この試験では、試験問題 10枚、解答用紙 2枚を配付する。

解答における注意

専門試験 言語科学 の問題は下記の6つの出題範囲からなっており、この順番に並んでいます。この中から志望する分野に応じて、ひとつの出題範囲だけを選択して解答してください。複数の出題範囲にまたがって解答してはいけません。問題の形式は出題範囲によって異なることがありますので、各出題範囲の指示に従って解答してください。

出題範囲

英語学
ドイツ語学・ゲルマン語学
フランス語学・ロマンス語学
言語学
国語学
日本語学

[英語学]

英語学の問題は「設問 I」と「設問 II」からなっています。各設問の指示に従って、両方の設問に解答して下さい。

設問 I（英語学）

1. 次の用語を英語の具体例を挙げながら日本語または英語で簡潔に説明しなさい。

- (1) inflection/derivation
- (2) phoneme
- (3) Gricean maxims
- (4) constituent
- (5) collocation

2. 次のデータをみて、以下の間に答えなさい。

- (1) a. John's watching.
b. John's reading.
- (2) A: What are you doing?
B: I'm reading.
B: ?I'm watching.
- (3) a. John is reading; so is Bill.
b. John is watching; so is Bill.

問1 (1)のペアをみると、watching, reading の後ろにそれぞれ「見ているもの」「読んでいるもの」を表す直接目的語が省略されているだけのように見える。しかし、(2)の応答のデータをみると、(1a)と(1b)には違いがあることがわかる。どのような違いがあると考えられるかを説明しなさい。

問2 問1に基づくと、(3a)と(3b)の意味解釈にはどのような違いがあることになるかを述べなさい。

3. 次の日本語を英訳しなさい。

* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

(出典：杉崎鉦司 (2015)『はじめての言語獲得』岩波書店、p.2)

設問 II（英語学）

構文文法について書かれた次の英文を読み、下の問に答えなさい。

*問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

（出典：Adele E. Goldberg (2003) “Constructions: a new theoretical approach to language.” *Trends in Cognitive Sciences* 7.5: 219-220 ; 一部改変）

問1 下線部を日本語に訳しなさい。

問2 Covariational Conditionalはなぜ「構文」(construction)と認定されるのかを本文にそくして説明しなさい。

設問II（ドイツ語学・ゲルマン語学）

次の問1と問2に日本語で解答しなさい。

問1 「設問I」の問1～5の文章からどれかひとつを選んで、冒頭の2つの文を国際音声字母（IPA）を用いて表記しなさい。必要に応じて、適宜、説明を加えてもかまいません。

問2 ドイツ語の派生接尾辞について説明しなさい。

[ドイツ語学・ゲルマン語学]

ドイツ語学・ゲルマン語学の問題は「設問I」と「設問II」からなっています。各設問の指示に従って、両方の設問に解答してください。

設問I（ドイツ語学・ゲルマン語学）

次の問1～5からどれかひとつを選択して解答しなさい。

問1 次のドイツ語の文章を日本語に訳しなさい。

* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務係の窓口で閲覧してください。

出典：Fritz, Gerd. *Historische Semantik*. Stuttgart/Weimar. Metzler. 1998: 142

問2 次のオランダ語の文章を日本語に訳しなさい。

* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務係の窓口で閲覧してください。

出典：*Groot Nieuws Bijbel*. Nederlands Bijbelgenootschap. Haarlem/Katholieke Bijbelstichting. 's-Hertogenbosch. 1999: 256

問3 次のスウェーデン語の文章を日本語に訳しなさい。

* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務係の窓口で閲覧してください。

出典：*Bibeln*. Svenska Bibelsällskapet. Stockholm. 1982: 457

問4 次のデンマーク語の文章を日本語に訳しなさい。

* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務係の窓口で閲覧してください。

出典：*Bibelen*. Det Danske Bibelselskab. København. 1998: 1310

問5 次のノルウェー語の文章を日本語に訳しなさい。

* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務係の窓口で閲覧してください。

出典：*Bibelen*. Bibelselskapets Forlag. Oslo. 1987: 301

設問II（ドイツ語学・ゲルマン語学）

次の問1と問2に日本語で解答しなさい。

問1 「設問I」の問1～5の文章からどれかひとつを選んで、冒頭の2つの文を国際音声字母（IPA）を用いて表記しなさい。必要に応じて、適宜、説明を加えてもかまいません。

問2 ドイツ語の派生接尾辞について説明しなさい。

[フランス語学・ロマンス語学]

フランス語学・ロマンス語学の問題は「設問Ⅰ」と「設問Ⅱ」からなっています。各設問の指示に従って、両方の設問に解答してください。

設問Ⅰ（フランス語学・ロマンス語学）

以下の専門分野に関する問題1～3より1題を選択し、問題番号を明記の上解答しなさい。

1. 以下のフランス語の文章を日本語に訳しなさい。

- * 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典 Genoveva Puskás, 2013, *Initiation au Programme Minimaliste*, Peter Lang, Berne, p.5.

2. 以下のスペイン語の文章を日本語に訳しなさい。

- * 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典 Luis Eguren y Olga Fernández Soriano, 2004, *Introducción a una sintaxis minimista*, Editorial Gredos, Madrid, pp.16-17.

3. 以下のイタリア語の文章を日本語に訳しなさい。

- * 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典 Massimo Prada, 2007, *Annotazioni di sintassi generativa*, Edizioni Universitarie di Lettere Economia Diritto, Milano, p.12.

設問 II (フランス語学・ロマンス語学)

フランス語、スペイン語、イタリア語のいずれかの言語について、その音韻的特徴を、対象とする言語で作文して説明しなさい。なお、説明にあたっては、具体的な例を提示すること。

[言語学]

言語学の問題は「設問Ⅰ」と「設問Ⅱ」からなっています。各設問の指示に従って、両方の設問に日本語で解答して下さい。

設問Ⅰ [言語学]

問1 次のマオリ語(Maori)の例文(1)-(9)を見て、「形容詞」という品詞をどのように記述すべきか、日本語の例文(10)-(15)と比較して論じなさい。なお、マオリ語の例文はLGRに従って一部グロスを書き換えてある。

* 例文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典： Bauer, Winifred.1993. *Maori*, New York: Routledge, pp.95-96, pp.481-2

- (10) 太郎は、かなり父に似る。
- (11) 太郎は、かなり走った。
- (12) 太郎は、かなり賢い。
- (13) 太郎は、かなり愚かだった。
- (14) あの山は高い。
- (15) あれは高い山だ。

CL: classifier / DEF: definite / GOAL: locative(goal) / INT: intensifier / PASS: passive / T/A: tense and/or aspect/ SG: singular / 3: 3rd person

問2 ある言語について母音体系と子音体系を別々に指定すると、音声体系全体の記述から見て不都合が生じることがある。あなたが知る1つ以上の言語について、母音体系と子音体系を示し、それらを別の体系とすべきか、統合的な体系を想定すべきかについて論じなさい。

設問Ⅱ [言語学]

以下の用語・トピックのなかから4つ選び、説明しなさい。

- a. 前提トリガー (presupposition trigger)
- b. 脱文法化 (degrammaticalization)
- c. メタ言語的否定 (metalinguistic negation)
- d. プラトンの問題 (Plato's problem)
- e. 分離可能性 (alienability)
- f. 他動形容詞 (transitive adjective)
- g. 非肺気流子音 (non-pulmonic consonant)
- h. 抱合 (incorporation)
- i. ロータシズム (rhotacism)
- j. 音韻分割 (phonological breaking)

[国語学]

設問 次は山本真吾「文体史はいかに可能か」（大木一夫・多門靖容編『日本語史叙述の方法』ひつじ書房、2016年）の一節である。これを読んで後の問いに答えなさい。

*著作権に配慮して、図版の転載を省略します。下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務係の窓口で閲覧してください。出典：山本真吾「文体史はいかに可能か」（大木一夫・多門靖容編『日本語史叙述の方法』ひつじ書房、2016年）267-268ページ。

- 1 日本語文体史の不連続はどの時期にあると述べているか、二つの時期を答えなさい。
- 2 引用部分の中程で「平安時代がそもそも「言文一途」であったかどうかについても疑義が持たれ、再検討が始まっている」とあるが、どのような疑義と再検討であるのか、説明しなさい。
- 3 引用された二種の『平家物語』について、天草版の口語文としての特徴を原拠となった百二十句本と比較して説明しなさい。
- 4 引用文の末尾に「鎌倉時代から南北朝、室町時代後期にかけての言と文との関係が分からない」とあることについて、その理由として考えられることを述べなさい。

[日本語学]

日本語学の問題は「設問Ⅰ」と「設問Ⅱ」からなっています。各設問の指示に従って、両方の設問に日本語で解答して下さい。

設問Ⅰ [日本語学]

- 問1 日本語において「書く」「食べる」といった動詞を「書かせる」「食べさせる」「書かれる」「食べられる」という形式にしたときに見られる「セル・サセル」「レル・ラレル」を語尾あるいは複語尾と見る立場（山田文法など）と助動詞と見る立場（橋本文法など）が混在している。それぞれの考え方の違い、それぞれの利点・欠点について論じなさい。
- 問2 伝統的な標準日本語の発音では、「学校が」の冒頭部の子音に[g]を、助詞の「が」の子音に[n]を用いるのが普通だった。しかし、この一世紀ほどで[n]が衰退している地域も少なくない。/g/と/n/という2つの音素を立てる考え方と1つの音素を立てる考え方を比較して論じなさい。

設問Ⅱ [日本語学]

以下の用語・トピックのなかから4つ選び、説明しなさい。

- a. 島の制約(island constraint)
- b. 限界性(telicity)
- c. 唇音化(labialization)
- d. 慣習推意(convetional implicature)
- e. エコラリア(echolalia)
- f. 補充形(suppletive)
- g. 属格主語(genitive subject)
- h. T/V 代名詞 (T/V pronoun)
- i. 対格言語 (accusative language)
- j. 結晶化ピジン (crystalized pidgin)